



鬼怒川堤防決壊(茨城県)H27.9



土砂災害(広島県)H26.8



那賀川はん濫(徳島県)H26.8

“命を守る”ための避難行動！！ タイムラインに従って安全に避難する

第2回 水害に強いまちづくりワークショップ

23

ワークショップ検討の進め方

- | | |
|--|------------------|
| 1) チェックイン
①ワークショップ検討の進め方 ②チェックイン (各テーブル) | 10分 |
| 2) 検討-1 【私たちのタイムラインの作成(自助)】
①検討の内容: 自分や家族のタイムライン(各自)
自分や家族の避難行動の判断
②検討の方法: タイムラインシート(A3)、意見カードに記入 | 35分
休憩
5分 |
| 3) 検討-2 【私たちのタイムラインの作成(共助)】
①検討の内容: 地域コミュニティのタイムライン(テーブル単位)
地域コミュニティの避難行動の判断
②検討の方法: タイムラインシート(A0)、意見カードに記入 | 30分
休憩
10分 |
| 4) チェックアウト 【検討のテーブルふり返し】
①視点: タイムラインの“良いこと”(自助、共助)
タイムラインの“課題”(自助、共助、公助)
②方法: 意見カードに記入 | 15分 |
| 5) 全体ふり返し
①テーブルの発表 ②本日のまとめ | 20分 |

24

平成27年9月関東・東北豪雨（鬼怒川の堤防決壊）の教訓

私たちの中讃地区においても、土器川の堤防が決壊したとき、“今のまま”であれば、どうなるか？

対象	起こること	備考(行政の対応)
洪水外力	<ul style="list-style-type: none"> ● 濁流が波打ちながら、激しく流れ出る ● 長時間、濁流があふれ続ける 	
情報・避難	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難勧告・避難指示が遅れる ● 防災情報メールが発信されない ● 道路が渋滞して、避難所に行けない ● 他市町の避難所には行かない ● 障害者は避難しない・できない 	<ul style="list-style-type: none"> ● どこで堤防決壊が起こるか予想できない ● 様々な対応に追われる ● 指定の避難所しか伝達できない
被害	<ul style="list-style-type: none"> ● 死者が出る ● 孤立者が出る ● 家が流される ● 長時間、浸水する ● 長時間、停電・断水する ● ゴミの不法投棄が多量に出る ● 防災拠点が浸水する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救命・救助活動 ● 緊急排水活動(排水ポンプ車) ● ライフライン復旧 ● ゴミ処理 ● 防災機能が麻痺する

25

ワークショップ検討の内容

<検討テーマ>：“命を守る”ための避難行動

～タイムラインに従って行動すれば、安全に避難できるか～

“今のまま”では、死者が出る

“命を守る”ための避難行動が必要

私たちのタイムライン(防災行動計画)を考える

【検討-1】

①自分や家族のタイムラインを考えてみましょう
何をきっかけに、どんな状況になれば、避難しますか？

【検討-2】

②地域の災害特性を踏まえて、地域コミュニティのタイムラインを考えてみましょう
何を基準・指標として、避難行動の判断を行いますか？

【ふり返り】

タイムラインの検討をふり返る

①“私たちのタイムライン”を実行することで、“良いこと”は何ですか？
②“私たちのタイムライン”を実行するための“課題”は何ですか？

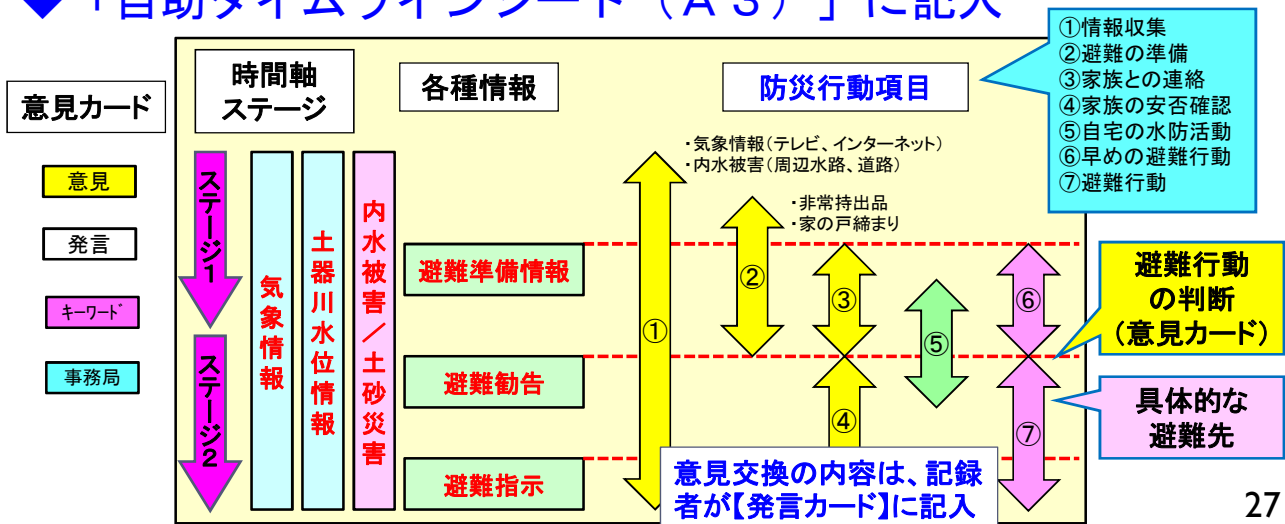
26

【検討－1】 私たちのタイムラインの作成（自助）

～自分や家族のタイムラインを考えてみましょう～

- ① “避難行動の判断(避難のきっかけ・タイミング)”を意識しながら、各自がタイムラインを考える
- ② “避難行動の判断”を「意見カード」に記入する
- ③ 順番に、タイムラインを発表する(避難行動の判断も含めて)

◆ 「自助タイムラインシート（A3）」に記入



【検討－1】 私たちのタイムラインの作成（自助）

※避難行動の判断(避難のきっかけ・タイミング)

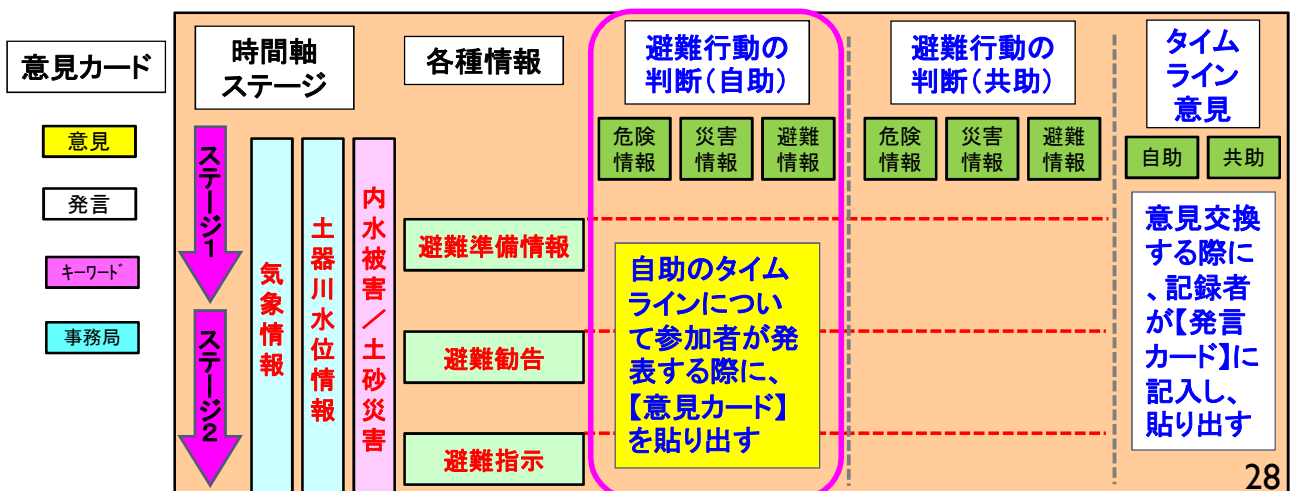
～何をきっかけに、どんな状況になれば、避難しますか～

- ①情報の種類: 危険情報、災害情報、避難情報
- ②避難の方法: 指定の避難所、一時避難場所、垂直避難、広域避難

※情報の種類:P.29参照

※避難所の特性:P.30参照

◆ 「意見カード」に記入



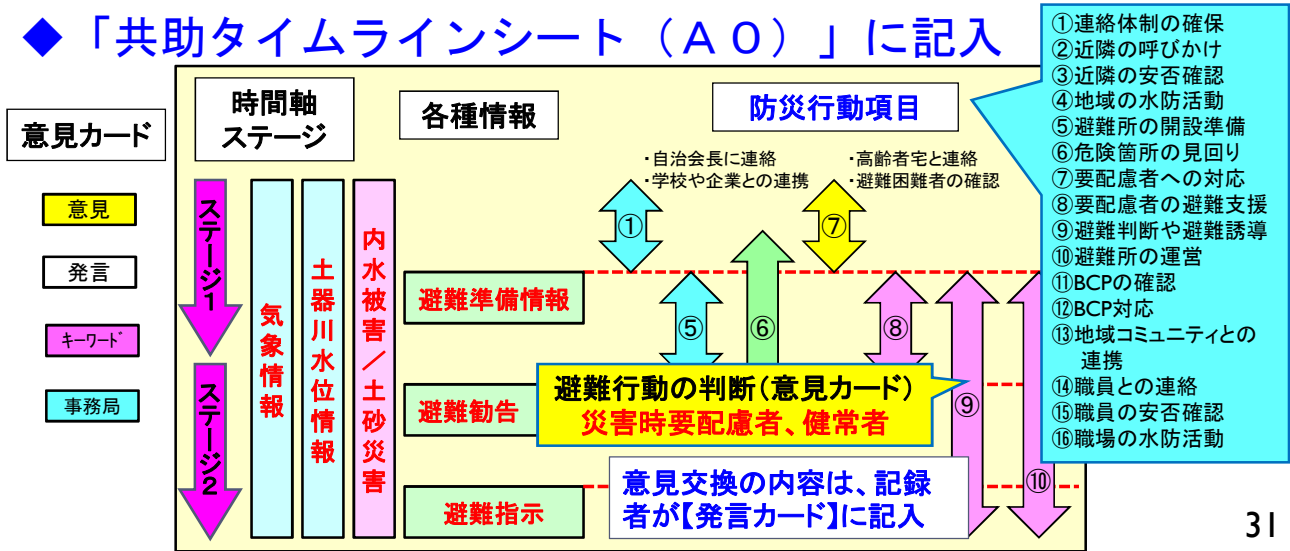
【検討－2】私たちのタイムラインの作成（共助）

～地域の災害特性を踏まえて、

地域コミュニティのタイムラインを考えてみましょう～

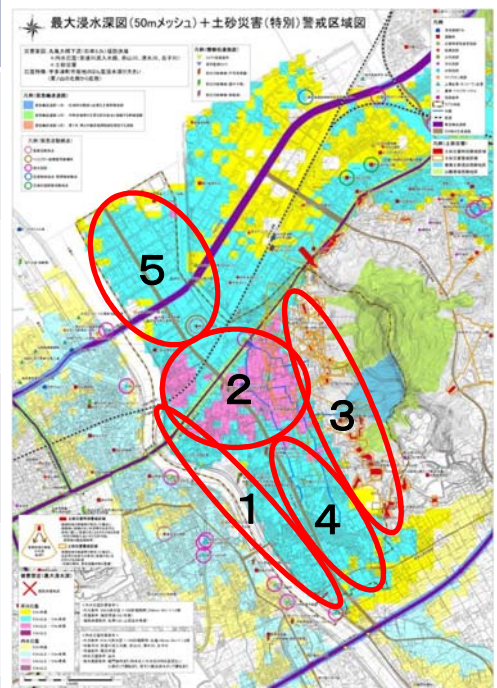
- ① テーブル単位で、災害特性を踏まえたタイムラインを考える
 - ・ テーブル1～5で対象地区を分けて検討 ※テーブル分け: P.32参照
- ② 災害時要配慮者と健常者を対象にした“避難行動の判断”を「意見カード」に記入し、整理する

◆ 「共助タイムラインシート（A0）」に記入



共助のタイムライン検討におけるテーブル分け

テーブル	地区	立場	地形特性	災害特性
1	土器川の堤防近くの地区	自治会、自主防災組織	・土器川の川沿い ・高い堤防	・堤防決壊時は長時間の濁流 ・家の流出 ・死者、孤立者
2	浸水深3m以上の地区	同上	・低平地 ・安達川流入水路	・内水被害(床上) ・堤防決壊時は2階まで浸水 ・死者、孤立者
3	土砂災害の危険性がある地区	同上	・青ノ山の周辺 ・山の斜面	・土砂災害 ・家の崩壊 ・死者、孤立者
4	その他の浸水深3m未満の地区	同上	・土器川と青ノ山の間 ・地形勾配が急	・内水被害(床下) ・堤防決壊時は1階まで浸水 ・孤立者
5	海に近い事業所が集積する地区	事業所	・海に近い ・低平地より地盤が高い	・堤防決壊時は1階まで浸水 ・孤立者



テーブル番号

【検討-2】 私たちのタイムラインの作成（共助）

※避難行動の判断（避難のきっかけ・タイミング）

～何を基準・指標として、避難の判断を行いますか～

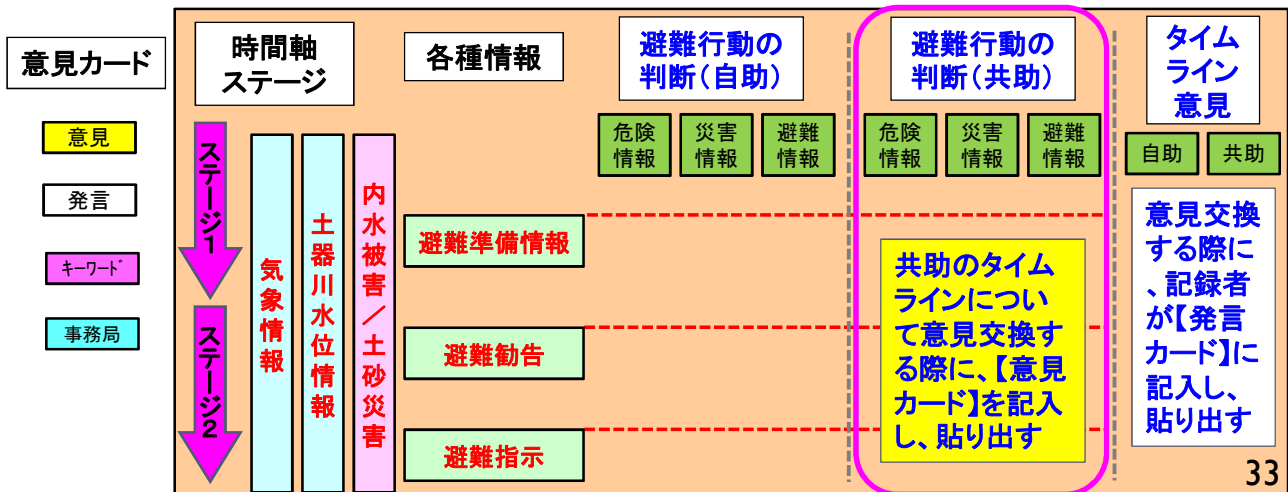
①情報の種類：危険情報、災害情報、避難情報

②避難の方法：指定の避難所、一時避難場所、垂直避難、広域避難

※情報の種類：P.29参照

※避難所の特性：P.30参照

◆「意見カード」に記入



33

【チェックアウト】 検討のテーブルふり返り

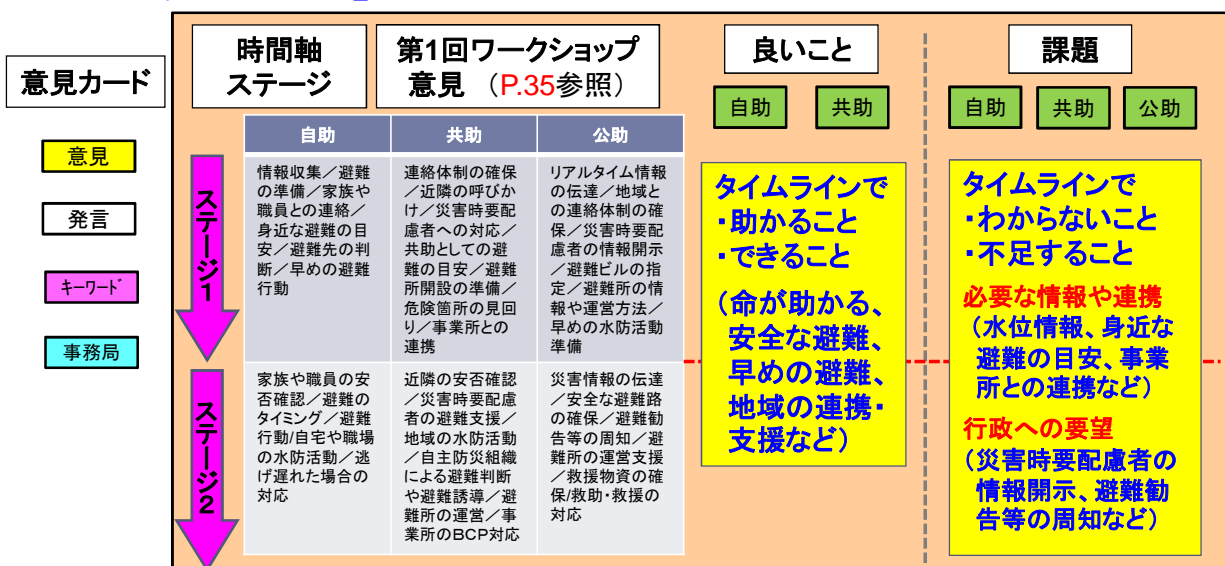
1) タイムラインの良いこと

～“私たちのタイムライン”を実行することで、“良いこと”は何ですか～

2) タイムラインの課題

～“私たちのタイムライン”を実行するための“課題”は何ですか～

◆「意見カード」に記入



34

住民タイムライン意見集約表（第1回ワークショップ）

対象 時間軸	地域住民 (自助)	地域コミュニティ (共助)	行政への要望 (公助)
ステージ1 (台風接近、 避難準備 情報) 2日前 ↓ 堤防決壊前 6時間まで	<ul style="list-style-type: none"> ●情報収集(テレビ、インターネット、家の周り等) <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・ラジオ・ネット・携帯で情報収集をする ・友達グループ(ライン)で情報交換する ・家の回りの様子を見る ・防災情報メールが頻発(見なくなる) ●避難の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・家の戸じまり、片付けをする ・いつでも避難できるように準備しておく ・自宅での非常持出品を準備する ・水・食料品・毛布等を確保しておく ・貴重品等は2階へ上げて置く ●家族や職員との連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・家族に声かけする ・外出中の家族と連絡・確認を行う ・社員と連絡を取る ・学校と連絡をとる ●身近な避難の目安(内水氾濫、道路の冠水等) <ul style="list-style-type: none"> ・浸水エリアに住んでいる ●避難先の判断 <ul style="list-style-type: none"> ・マイカーで国道より南へ退避する ・状況を見て、避難所に行くか、自宅の中で高い所に行くか決める ・浸水が3m以下なので、2階以上へ避難する ・川沿いの避難所に移動したくない ●早めの避難行動 <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者は先に避難する ・家族で早めに避難する 	<ul style="list-style-type: none"> ●連絡体制の確保(近隣、自治会、自主防災組織) <ul style="list-style-type: none"> ・自治会長やとなり近所に連絡する ・学校からの連絡を確認する ・自主防災会へ連絡する ・平常時から付き合いのない人への連絡は困難 ●近隣の呼びかけ <ul style="list-style-type: none"> ・隣り近所へ声掛けを行う ・近所に声を掛け避難する ・近所の人々の行動を確認する ●災害時要配慮者等への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会で要支援者の情報を持っている ・自治会の体の不自由な人、高齢者宅と連絡(相談)をとる ・避難困難者の確認を行う ●共助としての避難の目安(潮止堰の転倒、河川の水位等) <ul style="list-style-type: none"> ・ゴム堰たおれたら出水を知る ●避難所の開設準備 <ul style="list-style-type: none"> ・住民の受入れ準備を始める ・集会場を開放する ・避難所の確認を行う ●危険箇所の見回り <ul style="list-style-type: none"> ・危険場所の見まわり ・地域の見まわり ・消防の方を中心に見回りを行う ●事業所との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・協会員への周知、連絡、情報 ・企業自治会との連携 ・防災計画策定の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●リアルタイム情報の伝達(きめ細やかな広報) <ul style="list-style-type: none"> ・最新情報を正確に都度、伝えてほしい ・情報は、地図で表示(インターネット)して欲しい ・きめ細かい広報(十分に聞こえるように) ・現在の状況の把握(川の水位、道路) ・丸亀市防災ラジオがない ●地域との連絡体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・土器自主防災会と市の災害対策本部との連絡体制の確保 ・週末でも行政は、体制を確保出来る ・コミュニティと行政間の連絡体制の準備 ●災害時要配慮者の情報開示 <ul style="list-style-type: none"> ・どの段階で要支援者の情報を開示するか ・要支援者情報の開示をして欲しい ●避難ビルの指定(民間施設の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・役所が避難ビルの段取をしてくれると良い ・コミュニティまで時間がかかる。近くの民間ビルへ逃げたい ・民間施設との連携 ●避難所の情報や運営方法 <ul style="list-style-type: none"> ・どこに避難するか場所もいっしょに広報して欲しい ・避難所の適切な設営 ・当該地区の責任者(自治会長など)に、避難所の説明を行って欲しい ●早めの水防活動準備 <ul style="list-style-type: none"> ・水防に対する早目の準備(行政から消防団への連絡) ・水路の水がオーバーで土のう積の要請 ・土のうの手配準備(20袋/家)
ステージ2 (内水被害 発生、 避難勧告) 堤防決壊 6時間前 ↓ 堤防決壊 まで	<ul style="list-style-type: none"> ●家族や職員の安否確認 <ul style="list-style-type: none"> ・家族や職員の安否確認を行う ●避難のタイミング <ul style="list-style-type: none"> ・避難指示が出るのを待つ ・自宅で待機し様子を見る ・隣近所の人と相談しながら様子を見る ●避難行動(指定の避難所、一次避難場所、垂直避難、夜間の避難方法等) <ul style="list-style-type: none"> ・夜も遅く、暗く危険なので避難所へは行かず自宅待機する ・避難の知らせの時は、まず自宅の2階に避難する(垂直避難) ・団地内の高齢者はコミュニティセンターへ避難する ●自宅や職場の水防活動(土のう等) <ul style="list-style-type: none"> ・敷地廻りの土のう積みを行う ・家の浸水する箇所(玄関・勝手口)など土のうの積み上げ、土のうは自分で準備する ・会社施設の被害の軽減を行う ●逃げ遅れた場合の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・屋根の上へは避難できるのか?するべきか? 	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣の安否確認 <ul style="list-style-type: none"> ・近所の相互確認 ・電話にて(老人)安否確認 ・各家の避難状況の確認 ●災害時要配慮者の避難支援 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員と連絡を取り、要支援者の避難を考える ・高齢者をどう対応するか ・高齢者同士の助け合い ●地域の水防活動(消防団、水防団等) <ul style="list-style-type: none"> ・消防は警報が出てからの対応 ・団地内への水の流入にそなえて土のうの準備 ・ボートで巡回(消防団) ●自主防災組織による避難判断や避難誘導 <ul style="list-style-type: none"> ・水害、土砂等の違いで避難場所が違う ・防災組織網を使用して、避難するか、しないかを判断して行動するよう伝達する ・消防の指示に従う ●避難所の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ避難所の受入体制の対応 ・避難スペースの確保 ●BCP(事業継続計画)対応 <ul style="list-style-type: none"> ・会社の避難計画をもっと具体的に策定する ・職場の各担当者に停電時の対応を検討するよう指示する ・災害復興の協定はあるが、復旧協定はない 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害情報の伝達(浸水箇所、土砂くずれ等) <ul style="list-style-type: none"> ・土砂崩れの情報収集(青の山の情報)発信 ・浸水場所の情報 ・災害発生状況をリアルタイムで周知して欲しい ●安全な避難路の確保(堤防の照明等) <ul style="list-style-type: none"> ・土器川東側堤防(道)の照明を車で行って欲しい ・土器川右岸では堤防上の道路が避難路になるが、通行の確保をしてほしい ●避難勧告等の周知 <ul style="list-style-type: none"> ・広報車がたよりなので、どこへにげるかアナウンスしてほしい ・無線や広報車の情報が大雨で聞こえるのか ・勧告が出た時点では遅い ・警報(サイレン)の意味がわからない ●避難所の運営支援 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所への支援 ・満潮期の対応で土のう積までしか出来ない ●救助物資の確保(非常食、生活必需品等) <ul style="list-style-type: none"> ・避難者へのケア(布団・食糧・水) ・食料品等の手配を願う ・非常食は準備されているか ●救助・救援の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・独居老人を車で迎えに行ってもらいたい ・自衛隊への連絡、応急時、対応基準 ・避難出来ない人を助けてもらう

ワークショップのふり返し

① テーブル発表

- テーブル毎に発表（5テーブル×2分）

② 本日のまとめ

- ふり返し（ファシリテータ）
- 総評（会長、会長代理）
- 次回（第3回ワークショップ）の内容
 - 住民タイムライン(素案)の提示
 - “水害に強いまちづくり”のためのアイデア(重点対策)の抽出